

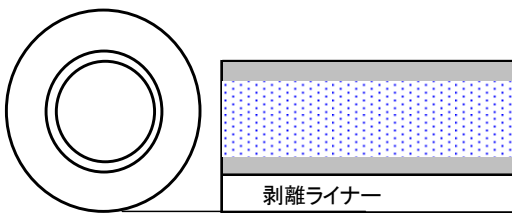
発泡体基材両面テープ 233

特徴

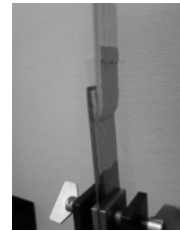
- ①基本的な性能を備えた発泡体基材両面
- ②発泡体による緩衝効果が得られる。

用途 ネームプレート、金属板、プラスチック板等の一般接着用途
緩衝材

構造



アクリル粘着層
ポリウレタン発泡体
アクリル粘着層



特性

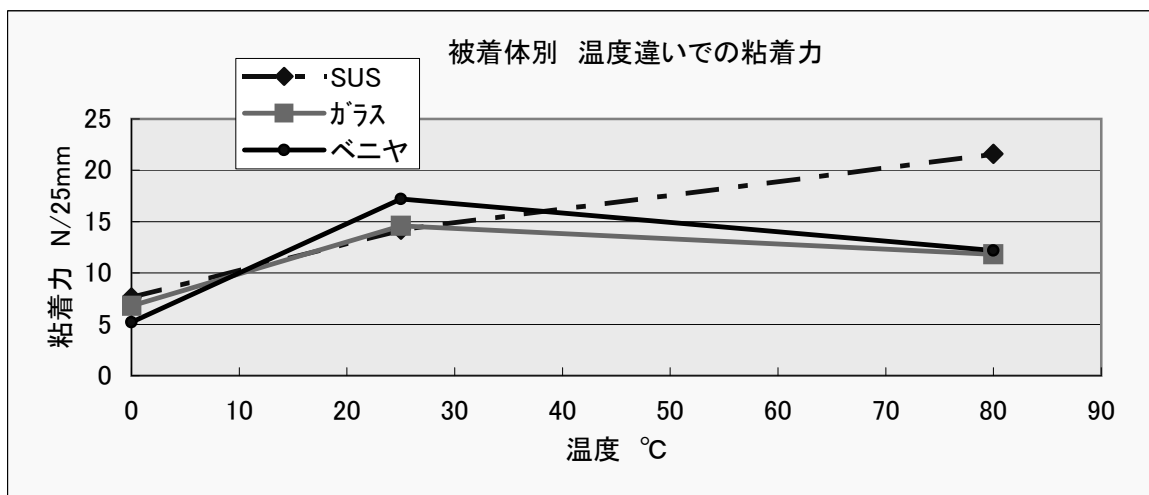
1. 基本特性

製品名	厚み (mm)	色	粘着力 (N/25mm)
233	3	白	15

裏打ち材 PET25 μ m
引張速度 300mm/min
引張角度 180度
測定温度 23°C

貼り合わせた後、24時間後の測定値

2. 被着体別粘着力特性

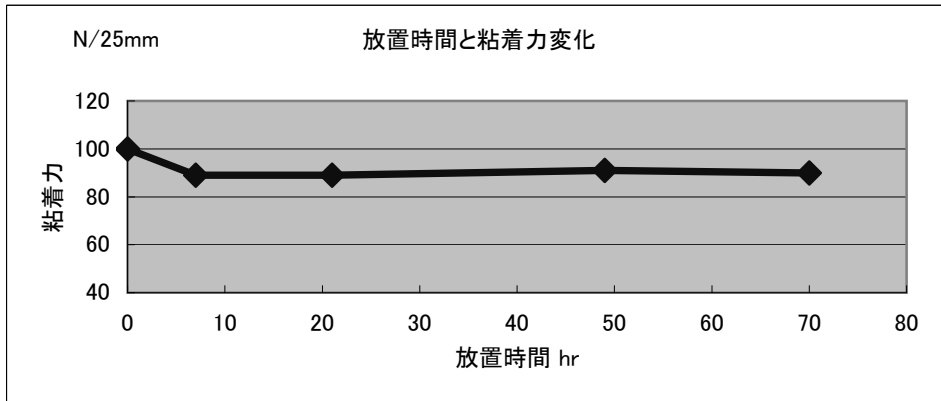


被着体がステンレス(SUS)の場合は、温度が上がっても粘着力も上昇します。
被着体が、ガラス、ベニヤ板の場合は、高温(80°C)になると粘着力がやや下がります。

3. 基材の特性 耐熱劣化特性

試験結果

放置時間	0	7	21	49	70	(日)
引張強度変化率	100	89	89	91	90	(%): 初期を100



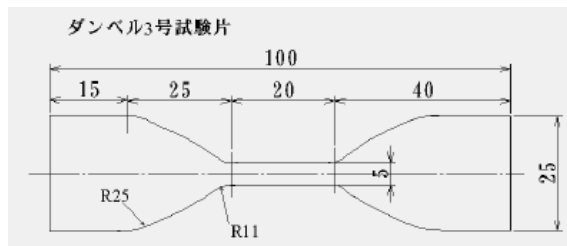
100℃雰囲気下にて、70日(1680時間)放置でも、特性変化は10%以内
(室温にて、約25年相当)

試験方法

試験体を100℃雰囲気下に放置、所定の時間ごとに強度を測定。

初期との変化率を求めた。

強度測定は、加硫ゴムの引張り試験法(JIS K-6251)(ISO 37)に準じた。



試験片形状:ダンベル3号型
引張速度は500mm/分。

引張強度は試験片の切断時の最大引張力。

引張応力は標線間距離が所定の長さに達したときの引張力とした。

$TB = FB / A$ 、(ダンベル形状試験片)

TB: 引張強さ (MPa)

FB: 最大引張力 (N)、

A: 試験片の断面積 mm²

4. 使用方法

- 1) 貼り合せる材料面のほこり、油などの汚れや水分を除去します。
- 2) テープをときほぐし、指圧にて被着体に貼り合せる。
- 3) ロールなどで十分に圧着した後、セパレータを剥がします。
- 4) 貼り合せる被着体を重ね合わせ、均一に圧着すれば、強力な接着強さが得られます。

ご使用上の注意

- 技術資料は全て共同技研化学(株)の研究室で行われたテストと実測値を基準に作成されております。
但し、製品特性は環境や被着体によって大きく変わることがあります。
したがってこれらの特性データにつきしては参考値であり、保証値ではありません。
ご使用される前にこの製品が使用用途・環境に適しているかお確かめの上ご使用ください。
- 上記測定は、室温(23℃)下でのデータです。低温(5℃以下)の場合、粘着力は、急激に低下する場合があります。

保管の注意

- 必ず箱に入れて保管してください。
- 保管場所は、直射日光の当たらない冷暗所を選んでください。
特に、高温高湿下(温度30℃以上 湿度50%以上厳禁)にさらさないでください。

共同技研化学株式会社
〒359-0011
埼玉県所沢市南永井940番地
TEL 04-2944-5151

2013年2月 発行